

2022 年度 神戸市外国語大学 学校推薦型選抜・社会人特別選抜 入学試験問題【小論文】

以下の文章は、現実と学問の関係について書かれたものである。大学で学ぶ学問について、あなたの考えを 800 字程度で述べなさい。

野鳥の会というのがありますね。その野鳥の会が野鳥観察会を開いたときの話です。

その話によると、ある観測会でこういうことがあったということです。今日は目玉商品（？—ということばをあておきます）をつくっておいた。面白いものが出て来たと言うから、鳥の名を当ててくれ、とそう言っておいて、会員にいつもどおりの観察をそれぞれさせておいた。しばらくして、いま、あそこに目玉商品である鳥がいるから、何か当ててごらん、と言うと、皆、双眼鏡を手に手に集まって来た。

もちろんそういう会に出ていて、しかも珍鳥の名をあててみようというぐらいの人ですから、かなり勉強した人でしょう。そういう人がたくさん出て来て、これは何とか鳥だ、いや、何とか鳥だと、いろいろ名前をあげた。（中略）とにかく珍しい鳥をいろいろあげた。それが全部違う。

結局のことを言うと、正解はスズメなのです。つまり、人が悪いんですが、その指導員は、目玉商品と言って珍鳥を想起させておいて、正解に、スズメという平凡な鳥をおいた。それで野鳥観測に相当自信をもったベテランは ——— まさかスズメと思わないから ——— スズメに似てスズメでない珍鳥をそれぞれ思いうかべて、それをあげた。

この話は、大事な教訓を含んでいるように思います。

私たちは、スズメにとりかこまれて住んでいて、普段見付けていながら、実はよく見ていない。慣れで見ているから、よく見ていない、ということにさえ気がつかない。だから、とんでもない状況の中で、素人にはスズメをスズメだと言い切ることができない。他方、素人でない観測ずれをしたベテランもまた、珍鳥に心を奪われ、眼を奪われて、スズメをスズメと言い当てられない。

平凡な鳥であるスズメをも、珍鳥を見るのと同じように正確に ——— 学問的にいろいろなチェック・ポイントに即して ——— 見ていなければならないわけです。

内田義彦(2004)『生きること 学ぶこと [新版]』(藤原書店)より抜粋
(ただし、引用の際に一部を省略した。)